

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	理学療法学
学籍番号	16S3014	院生氏名	川崎 孝晃
通学キャンパス	赤坂キャンパス		
論文題目	脳血管障害を有する通所高齢者における身体機能とADLの関連		
審査結果(枠で囲む)	合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について：本研究の目的は、脳血管障害を有する通所高齢者（維持期）における身体機能と歩行能力、ADLとの関連を明らかにすることである。対象は、脳血管障害を有する65歳以上の通所高齢者55名（維持期）で、調査方法は、面接調査と体格および身体機能の測定を行い、2年経過における身体機能等の変化および活動量についても検討した。結果、ADL（FIM運動項目）の自立には歩行能力（移動能力）や身体機能（麻痺側筋力、運動麻痺）が重要であると認められた。歩行能力（移動能力）には麻痺側筋力が重要であり、2年の経年的変化では、麻痺側筋力、移動能力が低下し、高活動群においても麻痺側筋力は低下しており、ADLの維持や活動量の維持には歩行能力と麻痺側筋力の維持が重要であり、歩行能力の維持には麻痺側筋力の維持が重要であると考えられた。以上の結果より、論文提出者は麻痺側筋力への積極的なアプローチが重要であることを明らかにした。本研究の新規性は施設利用者に特化した分析であり、低活動群は移動能力低下が認められた場合は活動量の低下に大きく影響を与えることを明らかにしたことであり、今後の維持期リハビリテーションにおける介入研究において発展できると考える。</p> <p>2. 審査会は平成30年12月5日に開催し、初回審査では目的と結論の整合性、論文書式の体裁、ADLと歩行に関する定義、活動量の評価および解釈などについて論文の修正を求めた。翌年平成31年1月4日および16日に再提出された論文で、適切に修正されたことを書類審査で確認した。また、論文の論証、形式も的確に記載されている。</p> <p>3. 各審査での口頭試問でも明瞭な発表を行い、結果の解釈などについての質問に的確に答え、指摘された部分については真摯に対応し適切に応答した。</p> <p>4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（保健医療学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	金子 純一郎	
	副 査	谷 浩明	
	副 査	藤本 幹	